

令和元年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
 ◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：中央図書館のみ

区分	施策・事業名	概要	実施結果(確定)	評価		
				自己評価	外部評価	
ネットワークを活かした課題解決型図書館	◇全館共通評価項目	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・利用者からの調査依頼に対応したほか、市職員に向けても自治体情報誌の目次情報の提供を行い、依頼が増加した。	・利用者からの調査依頼に対応したほか、市職員や議員への情報提供や調査依頼対応を通して行政支援を行うことができた。	3 大変評価する。 45%	<ul style="list-style-type: none"> ・市民利用だけではなく、行政支援に繋げておりとても良いと感じた。 ・今後は市民や自治体利用が増えるよう、周知の仕方に工夫が必要と考える。またHPより申込み依頼ができるよう尚更良い。 ・市民や市職員などの対応を行い、依頼が増えたことはとても良いことだと思う。 ・レファレンス件数の伸びは評価できる。さらに周知に努め、活用されるようになってほしい。 ・議員や市職員等への支援は気を遣うことが多いと思われるが、このことを通じ行政・議員の考えていること等が理解でき、広い知識を得る。また、図書館に対する高い評価と理解を得られる。高く評価。 ・さまざまな要求や依頼が寄せられる中で、対応されていると感じる。さらに、市民に開かれたレファレンスとしての機能充実を望みたい。 ・利用者からの調査依頼や、市職員に向けての情報提供に励まれての依頼増加現象とそれらの対応を評価し、更なる期待をしたい。 ・レファレンスサービスを充実させるためにも、これまでの調査・相談内容を分析し、今後のサービスに生かす必要があると思う。そういう努力が大切。 ・書籍をはじめとした情報収集、発信、提供は、図書館にとつての強みである。市民はもちろん、行政機関との連携・協働は大変評価すべき点である。継続支援を希望する。
	◆館の重点評価項目				・職員のリファレンス(調査相談)研修として、前年度に作成したパスファインダー(調べ案内)の情報をホームページで公開する準備を行った。	
特色ある分地域づくり館に	◇全館共通評価項目	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の特別コレクション室展示を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 「戊辰戦争と新潟」H31.3.7～R1.9.3 「会津八一入門」 R1.9.5～R2.3.3 「吉屋信子と時代を生きた女流作家たち」 R2.3.5～R2.6.28 ・地域連携事業講演会「信濃川右岸からみた新潟港開発」を開催し、沼垂地域の理解を深める講演会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している新潟にゆかりのある作家を広く知ってもらおう展示のほか、戊辰戦争150年を冠した展示を行い、これまでとは違う切り口から新潟の歴史を紹介した。 ・地域連携事業講演会は、地域のコミュニティ協議会・「沼垂今昔の会」・公民館と連携して開催し、地域の歴史を深く知る講演会を協働で開催することができた。 	3 大変評価する。 64%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や人物を知ることとても重要である。展示に工夫をして、老若男女が興味を持ち楽しめる展示にしてほしい。 ・講演会には多くの人が参加していて、地域にとって必要性があるのだと思った。 ・図書館の重要な1つであり児童・学生等を含め郷土の誇りと愛着につながる一層の充実を望む。 ・歴史的なことや人物などに偏ることなく地域、色々なジャンルや地域で活躍する産業や生産物、作品、著名人等掘り起しの感覚で紹介していただくと理解を深め図書館への愛着が沸く。 ・図書館利用者は特定の市民に限られる傾向が強いと考えている。そうした意味でも、それ以外の市民に図書館という場を知ってもらい、利用してもらおう試みとして評価している。 ・歴史の出来事からの新潟を知るという、今までとは違った切り口はたいへん良かった。継続を望む。 ・地域連携事業講演会も更なる期待をしたい。 ・もっと学校と協力し合う体制を取ってほしい。学校に遠慮せず、授業に役立つ情報を集めたり、研究したりして、学校図書館司書や司書教諭に伝えてほしい。そうしないと図書館は全て委託されてしまう。 ・地域の歴史を継承し、継続を希望する。 ・協議会委員への取組・ビジョン説明を行い、意見交換を行っていた。今後も、地域の意見を反映し、利用者満足度を上げてほしい。 ・色々な意見を聞ける場があるのはとても大事だと思う。 ・協議会等によることも重要と思われるが、技術革新や社会環境等の変化がめざましいので年代別、検討事業に特化した専門家等を含めて「ベキ」議論と共に隔年開催等の結果を見える方策の検討は。 ・意見交換はあるのだが、時間的な制約もあって十分とはいえないと思う。 ・協議会委員との情報共有を行い、活発な意見交換を評価する。 ・図書館の何が問題なのか、課題なのかを図書館自身が鮮明に提示し、委員の本音、本気の意見を求め改革して行ってほしい。 ・各区の状況もさまざまであることから、合同情報交換会の開催は必要と考える。感染症対策を講じ、継続開催を希望する。
	◆館の重点評価項目				・図書館協議会合同情報交換会を開催し、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	

区分	施策・事業名	概要	実施結果(確定)	評価		
				自己評価	外部評価	
学・社・民融合型図書館	◇全館共通評価項目	子どもの読書環境の整備 ・ブックスタート事業を継続する。 ・赤ちゃんタイムの利用を促進する。 ・うちどく(家読)を推進する。	・中央図書館では、2区5会場でブックスタートを63回実施し、2、020名に絵本を手渡した。また、中央図書館で実施したブックスタートで13組に絵本を手渡した。全市での実施率は95.4%となった。 ・うちどく(家読)関連事業として、1・2期の「子ども司書講座」受講者を対象とした「認定子ども司書の活動」(12日間のうち参加希望日)を実施した。おすすめ本の紹介文の館内掲示や事業の補助などを行い、13名参加し延べ59名が活動した。	・ブックスタートでは、ボランティアによる読み聞かせの体験、関係課・機関が実施する子育て支援の情報を配布するなどこの機会を活用し、家庭での読書推進を働きかけた。ブックスタート実行委員会や関係者会議などを開催し、ボランティアや関係課・機関と連携して子育て世代へ読書活動を推進できた。 ・うちどく(家読)関連事業である「認定子ども司書の活動」では、同世代の利用者の目に触れるように掲示場所や表示を自ら工夫するなど、事業補助を通して自主的に活動する楽しさを感じてもらうことができた。	3 大変評価する。 64%	・ブックスタートでの実施率を100%に近づけるような対応を検討してほしい。 ・うちどく事業の子ども司書の活動は、仕事体験を通じてより本に対して興味を持ち、自分の得た知識・経験を人へ伝えることにより、思い出として残る。今後も定期的に行ってほしい。 ・まずは小さいうちから絵本に親しみを持ってもらうママ世代にも身近に感じてもらいたいので大変なこともあると思うが、これからも続けてほしい。 ・2Fに行く階段やエントランスなどを利用した掲示はとても良いことだと思う。たくさんの子どもの目に触れますように。 ・幼少時に読書の習慣を身につける手段として、ブックスタートはとても有効だと考えている。 ・子ども司書の活動でポップや展示コーナーを設け、PRIに努めたことも評価できる。核家族化が進み、プライバシーの問題が尊重される昨今、子育て関連の部署と連携して行政内で情報共有を進めてほしい。 ・ブックスタートは本離れの親としても大変助かる事業である。子どもの図書への関心がこの時期に芽生えると思う。これからも充実させてほしい。取組は大いに評価される。 ・ブックスタートを、全市の実施率95.4%にあげたことに評価する。継続した弛まぬ努力があることが理解できた。 ・うちどく関連事業での「認定子ども司書の活動」の実施については、とても興味深く思っていた。「子ども司書講座」からの実技は、たいへん有効的な事業であった。 ・ブックスタートなども含め、効果的な施策はさらに問題点を見つけより良いものに。その他の子どもを読書好き、図書館活用の働きかけと実践、家や研究者、図書館関係の職員、教員、市教委などが創意工夫を働かせ、よりよい改善策を見つけて出す必要あり。一般的な評価などいらないやっても現状は変わらないと思う。 ・ブックスタート事業は、引き続き継続を希望する。赤ちゃんとのコミュニケーションツールとなる、絵本と保護者の声での読み聞かせを伝える機会となる。児童虐待防止の観点からも、ぜひ、実施方法を検討してもらいたい。
	◆館の重点評価項目	・市内4つの学校図書館支援センターが、学校・関係機関と連携し、学校図書館活用を推進する。 ・「地域と学校パートナーシップ研修会」に参加し、関係機関との情報共有を図る。	・4つの学校図書館支援センター全体の取組 ①学校図書館訪問(284回)、業務相談(1,388件)、新任学校司書研修(6回、延べ71名参加)、学校司書実務研修(4回、延べ160名参加)、学校ボランティア支援(6校、6回)を実施した。 ②総合教育センター研修「教員と司書との連携充実」に参画し、学校支援課「学校図書館活用推進校事業」に協力した。 ③特別支援学校の学校図書館整備に関する情報収集に努め、個別支援を行った。 ・地域と学校パートナーシップ研修に全館で延べ18名が参加した。	・市立全校への学校図書館訪問により運営や活用状況を聞き取り、各種相談に応じて業務の円滑な遂行に寄与した。 ・各種研修を企画・実施し学校司書のスキルアップや業務の平準化を進めた。 ・関係課・機関の事業や研修に参画・協力して連携に努め、充実度の向上に貢献した。 ・東・西特別支援学校の運営状況を聞き取るアンケートを実施し、ニーズに応じた個別支援により環境整備や読書活動を推進できた。 ・本市教育委員会のこれまでの学校図書館の整備充実が高く評価され、第49回「学校図書館賞」(主催:公益社団法人全国学校図書館協議会)を受賞した。	3 大変評価する。 82%	・学校司書を各学校に配置しているが、情報交換や研修を通してより良い図書館環境づくりが出来ると思う。 ・役に立つ情報などを定期的に司書へ発信してほしい。 ・地域と学校パートナーシップ研修会には、図書館での取り組みを情報共有し、地域や学校からの要望を改善等を今後の活動に取り入れてほしい。 ・日頃の図書館の努力が評価されたのだと嬉しく思う。中に配置の4つの学校図書館支援センターの役割の大きさも重要視する。これからも楽しみながら期待を持った。 ・学校図書館支援センターは、学校・園の大きな力となっている。特に特別支援学校においても学校図書館の活用が進んでいる点は、大いに評価できる。今後も学校園のニーズを把握し、頼られる存在となってほしい。 ・1950年代の学校図書館法制定から専任の学校司書配置が始まり整備5ヶ年計画等から重点的対策実行の積み重ねにより全国的なこの地位を確立されたことに敬意を表すと共に評価。維持向上を期待する。 ・小学生の作文コンクールを審査する機会があったが、学校図書室の蔵書の充実はもちろん、司書の力量が子どもに与える影響が多いと感じた。司書の持つ専門的な知識を生かし、さらに充実した図書室環境を目指す取組としての期待は大きい。 ・市立学校への訪問をして、学校図書館司書の資質向上を図り、それが子どもたちの読書活動につながっている。大いに評価される。 ・4つの学校図書館支援センター全体の取組を評価する。 ・東・西特別支援学校の運営状況アンケートの実施をしたこと。ニーズに応じての個別支援による環境整備や読書活動の推進を行ったことを評価する。 ・第48回「学校図書館賞」の受賞による、これまでの学校図書館の整備充実を高く評価されたことは素晴らしいことである。 ・学校関係者や図書館関係者にもっと本気で要望や問題点、改善策を出させ、両者でそれを検討することが大切。きっとよいアイデアが出るはず。 ・各学校、各図書館の実績の上があったところの具体策、共通の方策を整理して示すことが大切。 ・学校図書室は、児童・生徒が自分の足で本を探しにいけることができる場所。司書の先生には、子どもの本の世界を広げるお手伝いをしてくださることを期待する。 ・学校図書館賞は、大変評価されるべき点だが、市民に伝わっているか?という疑問がある。ぜひ、周知してはどうか?
市民参画と協働を推進する	◇全館共通評価項目	ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・市民団体(新感覚☆図書部)との共催で、「大人の部活」(2回、延べ27名参加)を開催し、読書会や、地域を知る活動を行った。 ・市民団体(ビブリオバトル愛好会)との共催で、「ほんぼーとビブリオバトル」を開催した(13名参加)。併せて関連イベント「ビブリオバトル体験会」(2回、延べ13名参加)と「はじめてのビブリオバトル」(2回、延べ13名参加)を開催し、民間団体と協働で読書活動の啓発を行った。 ・コズミックカレッジ新潟会場実行委員会との共催で、「コズミックカレッジ新潟会場2019」を開催した。(参加者親子17組) ・北新越こどものとも社との共催で、「新潟絵本講座2019」を開催した。(参加者120名)	・ボランティアや市民団体等と共に様々な事業を開催し、読書を通しての交流や読書活動の啓発を行い、協働を推進した。	3 大変評価する。 27%	・「新潟絵本講座2019」には参加者120名と、参加人数も多くの魅力的なイベントであったと感じる。 ・その他イベントへの参加者が少なく、広報の仕方、イベント内容の見直し等必要である。 ・前回よりビブリオバトルの数や参加者が増えたようによかったと思う。市民の読書活動がもっと広がってほしい。 ・色々な活動が活発でよいと思った。コロナウイルスの問題もあると思うが、今後も期待する。 ・ボランティア育成は手間と努力が必要と思われるが館への協力的存在者として一定の予算化と柔軟な指導育成を望む。 ・利用するだけでなく、ボランティアとして図書館の運営に加わってもらえるのは、より取り組みだと考えている。さらなる広がりが得られたら、なおよいものになるのではないかと。 ・ボランティアや市民団体等と共に様々な事業を展開したことや、読書を通しての交流や読書活動の啓発を行い、協働を推進したことを大変評価する。 ・ボランティアや民間団体の人の意見をしっかりと聞いて、活動する時の問題点や図書館に対する苦言などをよく聞いて、それを改善する、解決する等を明示してみたい。そして、それをみんなで検討する必要がある。何しろ、図書館活用の活性化のためには、本気で知恵を出し合うしかない。 ・ボランティアや図書館ファン、図書館を文化の核にして文化度を高めたいと思っている人は、一度なくなると元に戻るにはなまじでない努力が必要になる。最後の機会にきていると思っている。継続の活動を希望する。
	◆館の重点評価項目	ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・読み聞かせボランティア養成講座を東区・中央区・合同で実施した。(参加者15名) ・読み聞かせ等ボランティアグループ情報交換会を実施した。(参加者26名)	・読み聞かせボランティア養成講座を東区・中央区合同で実施したことにより、効率的効果的な講座を行い、新たな読み聞かせボランティアを受け入れることができた。 ・読み聞かせ等ボランティアグループ情報交換会を実施、グループ間の交流や情報交換を行い、グループ活動の支援ができた。	3 大変評価する。 27%	・読み聞かせボランティアを増やし、今後も多くの子ども達へ読み聞かせの機会を増やしてほしい。 ・今後は、自宅に居ながら親が子どもに読み聞かせをする際の、アドバイスやポイントなどをまとめ、読み聞かせの豆知識的なことなどをまとめた冊子をボランティアから作成してもらい、配布してはどうか。 ・ただの読み聞かせではなく、効果音に楽器や使用したり、ぬいぐるみや小道具などを使用して、ちょっと変わった読み聞かせをしてほしい。 ・新たなボランティアが増えたり、読みボラ交換会の開催など広がりがあったと思う。 ・継続した取組として努力してほしい。 ・読み聞かせボランティア養成講座を合同で行うことで、講座の効率・効果的が、受講される側にあったのかどうか分からない。新たな読み聞かせボランティアの受け入れができたことは良かったが、現存のボランティアを含めた方々の活動は充実されているかが気になる所である。 ・ボランティア養成講座への参加者はここ5年間くらいを調べて、多くなっているのか、減っているのか。 ・人材育成や確保は、課題であると想像する。高齢化などの課題もあると想像する。引き続き、継